

シリーズ《生き続ける文化財》： 延暦寺から『日吉大社』へ

比叡山には2つのケーブルカーが走っていますが、日本最初のケーブルカーをご存じでしょうか。生駒ケーブルの宝山寺線で、1918（大正7）年の開業です。この頃から都市近郊の靈山でケーブルカーの敷設が盛んに進められ、叡山ケーブルは1925（大正14）年、坂本ケーブルは1927（昭和2）年に開業しました。これにより比叡山は多くの参詣者に開かれた場所となって行きました。そこで今回は、比叡山からケーブルカーに乗って坂本に向かい、山麓の『日吉大社』を巡りましょう。

《紹介》

「一山に立て籠っている」と言われた比叡山延暦寺が広く参詣者を受け入れる契機になったのは、1921（大正10）年の伝教大師（最澄）一千百年大遠忌であった。

延暦寺は古くから修行の山としての性格が強く、参詣者に対する関心は高くなかった。しかし大正後期ごろから、その姿勢が延暦寺や天台宗内で問題視され、思想の喧伝や参詣者の受け入れ、延暦寺への移動手段の改善が求められるようになった。その背景には、近代以降の寺社参詣が鉄道網の整備によって徒步から鉄道へと変化し、都市近郊の靈山では、大正中期以降ケーブルカーの敷設が盛んに進められたという事情がある。

天台宗は大遠忌を教団再興の重要な契機と位置づけ、遠忌前年までの3年間で延べ240日以上に亘って全国各教区への巡錫（じゅんしゃく）（伝道）が行われ、延暦寺では記念事業として浄土院、大講堂などの堂塔改修や、主要参道の整備が行われた。また地方団参者の募集では、参拝団の移動手段に高い関心が寄せられ、鉄道や汽船を活用した輸送対策が実施された。その結果、大津と坂本を結ぶ江若鉄道の路線（三井寺下一叡山間）が遠忌法要の前に開業した。

大遠忌が盛況裡に終わり、天台宗は報恩伝道をさらに5年間継続することとし、延暦寺では信者に対する本山参詣の勧誘を強く意識するようになった。しかし移動手段は江若鉄道と汽船のみであったため、利便性向上を図

➤ 比叡山から坂本方面を見る



千
百
年
比
叡
を
聞
く

大
遠
忌

➤ 坂本ケーブル



↓ケーブル延暦寺駅



↓ケーブル坂本駅



るための新規鉄道敷設に向けた動きをみせた。

京都方面では、叡山電気鉄道が出町柳一八瀬間の平坦線と八瀬一四明ヶ嶽間のケーブル線の免許を1922年に取得し、1925年9月に平坦線、同年12月にケーブル線が開業した。

坂本方面では、1919年ごろからケーブルカーの計画が進められ、比叡登山鉄道株式会社が坂本一叡山中堂間の免許を1924年に取得し、坂本からのケーブルカーが1927年3月に開業した。また同年9月には琵琶湖鉄道汽船が坂本駅－石山駅間を全通している。

こうして比叡山観光が活況を呈していったのである。

延暦寺へは叢山ケーブルに乗ったので、帰りは坂本ケーブルで下山した。全長 2 キロの坂本ケーブルは現役で日本最長のケーブルカー。両端の駅舎は国の登録有形文化財だ。ケーブル坂本駅の北には 40 ヘクタールもの広大な境内を有する日吉大社が鎮座する。

日吉大社は、崇神天皇の頃に創祀されたといい、全国 3800 余日の日吉・日枝・山王神社の総本宮である。日枝山（比叢山）の大山咋神（おおやまくいのかみ）を祀り《東本宮》、その後大津京遷都のとき大和国から大己貴神（おおなむちのかみ）を移し《西本宮》、ともに祭神とした。平安時代には宇佐・白山・牛尾・三宮・樹下の神々も祀り「山王七社」と称した。境内には約 40 の社があり、それらを総称して「日吉大神」と呼ぶ。

社殿は信長の焼き討ちで焼失したが、その後復興し、西本宮本殿が 1586（天正 14）年、東本宮本殿が 1595（文禄 4）年に再建された（国宝）。両本殿は、切妻造の母屋の前面と両側面に庇をめぐらすという特殊な形で「日吉造（ひえづくり）」呼ばれる。床下にはかつて仏事を営んだ「下殿」と呼ばれる部屋があり、神仏習合の特殊形態として興味深い。

西本宮に向って参道を進み、大宮橋を渡ると山王鳥居が建っている。この鳥居は笠木の上に、山に見立てた合掌形の木を載せている。日吉大社が延暦寺の鎮守社であるところから神仏習合の象徴ともいわれ、他に類を見ないものだ。大宮橋は境内を流れる大宮川に架かる石橋で、走井橋・二宮橋とともに「日吉三橋」と呼ばれる重文だ。

東本宮の楼門を入ると、樹下神社の本殿が左手に、拝殿が右手に建っている。本殿と拝殿を結ぶ線が、東本宮と樹下神社で直交するという珍しい位置関係にある。

日吉大社の信仰の始まりとなった神体山八王子山の頂上付近には、三宮神社と牛尾神社

➤ 日吉大社

↓ 山王鳥居



↓ 参拝マップ



↓ 西本宮樓門



↓ 大宮橋

残り柿
狙う哉
軒下の猿

↓ 東本宮樓門



↓ 三宮神社と牛尾神社



↓ 八王子山

↓ 三宮神社と牛尾神社

の本殿・拝殿が並んで建っている。山上という地形に制約され、三間社流造の本殿に、懸造の拝殿が本殿正面縁を取り込むようにして建てられている。

境内には神格化された比叢山の猿もいて「神猿（まさる）」と呼ばれる。西本宮樓門の四隅の軒下には屋根を支える木像の「棟持ち猿」もいる。神猿は魔除けの象徴として祀られ、「魔が去る、何よりも勝る」に因んで大切にされてきた。

比叢山の麓に鎮座する日吉大社にはたくさんの物語が詰まっていた。